



淡路島洲本の

歴史巡り

The history of SUMOTO





洲本城天守台から見た市街地パノラマ

登場人物解説



淡路細川氏

足利将軍を補佐した管領阿波細川家の一族。南北朝時代に足利尊氏の命令で、阿波の守護細川頼春の弟である師氏が淡路に侵攻し、そのまま淡路国守護となった。



安宅氏

紀州熊野水軍の出身。足利二代将軍の要請で沼島の海賊退治のため淡路に渡ってきた。その後、淡路に本拠地を移し細川氏の家臣として仕えた。



脇坂氏

脇坂安治は豊臣秀吉の子飼いの武将で、賤ヶ岳七本槍のひとり。仙石秀久に代わり洲本城主となり、今に残る壮大な石垣の城に改修した。



蜂須賀氏

徳島藩主。大坂冬の陣で功績を挙げたことが認められ、豊臣家滅亡後に淡路一国を与えられ、阿波・淡路を持つ大名となった。



稲田氏

徳島藩の筆頭家老。蜂須賀氏に淡路一国が与えられてから、主に淡路支配を任されていた。1万4500石と家老ながら大名並みの所領を持っていた。

洲本市の 歴史文化遺産

瀬戸内海に浮かぶ最大の島、淡路島。古事記や日本書紀によると「国生み神話伝承の島」といわれ古代のロマンに満ちています。そんな淡路島の真ん中にある洲本市は、東は大阪湾、西は播磨灘に面し、白砂青松の大浜海岸や貴重な植物が自生する成ヶ島、瀬戸内海に沈む夕日など風光明媚な自然に溢れています。

市街地は、中世に洲本城が築かれてから城下町が整備され、近世には淡路島の政治、経済、文化の中心として発展しました。今も城下町時代の町割りが残っていて、その歴史を感じる事ができます。また、近代の明治・大正期に建てられた紡績工場のレンガ建物は、現在レストランや図書館などにリノベーションされ近代化産業遺産として歴史を今に伝えていきます。

この冊子では、洲本市内に点在する歴史文化遺産をご紹介します。心のままに巡ってみれば、きっと新しい発見に出会えるはずです。



2 すもとじょうあとしろ 洲本城跡(下の城)

脇坂安治が伊予の大洲へ国替えした後に上の城は廃城となりましたが、下の城は江戸時代に淡路国の統治を任された藩主の蜂須賀氏によって再整備されました。

下の城には藩主の御殿が築かれ、家老の稲田家の屋敷も併設されていました。現在見られる石垣や堀は、蜂須賀氏時代のものです。洲本市の史跡に指定されています。

現在の御殿跡地は、淡路文化史料館や裁判所、税務署となっています。



洲本城の御城印

総石垣の城を築いた脇坂氏の家紋「輪違い」をあしらった無地と風景入りの2種類のデザイン。淡路文化史料館にて1枚200円(税込)で販売しています。



国史跡 洲本城跡(上の城)



3 おおほまこうえん 大浜公園

大浜海岸の南側には江戸時代のままの松原と砂浜が続いています。この松は、家老の稲田氏の祖先である赤松氏にちなんで植樹されたといわれています。海水浴場は「日本の快水浴百選」に認定されています。



1 みくまやま 三熊山

三熊山は「高熊山」「乙熊山」「虎熊山」の熊の名が付く三つの山の総称のことで、そのため洲本城は別名「三熊山城」と呼ばれていました。大浜公園南側の山手に登山口があり、西登り石垣を見ながらハイキングが楽しめます。

大阪湾に睨みを効かす淡路水軍の居城

1 すもとじょうあとしろ 洲本城跡(上の城)

大阪湾に面する標高約133mの三熊山の山上に築かれた洲本城は、戦国時代の大永6年(1526)に淡路水軍を率いた安宅氏によって築かれたと伝わっています。安宅氏は羽柴秀吉の淡路攻めで降伏し、秀吉配下の仙石秀久が城主となりました。

天正13年(1585)に仙石氏に代わり脇坂安治が入城し、今に残る総石垣の堅城に生まれ変わりました。脇坂時代は慶長14年(1609)までの24年間に及びました。

洲本城は山上の城と山麓の居城があり、「上の城」と「下の城」に呼び分けられています。城の防衛のため、上下の城を結ぶように東西2箇所に登り石垣が築かれており、洲本城最大の特徴となっています。東西約800mにおよぶ広大な曲輪群は西日本で最大規模を誇り、秀吉の大坂城を守る城として大阪湾に睨みを効かせていました。

平成11年に国の史跡に指定され、平成29年には続日本100名城に選定されました。



4 南の丸 隅櫓跡

南の丸の櫓台跡には、石垣を増築した際の増築ラインがはっきりと残っています。石垣が完成した後、左へ約4m拡張され、さらに上側にも積足して大きく補強されました。

増築された理由はよくわかっていません。



5 日月池

東の丸には北側の二段郭と、南側の日月池を中心とした水の手郭の2つの曲輪があります。水の手郭には、籠城戦の備えとしてつくられた山城には珍しい池や井戸があります。渇水期でも水が絶えないといわれています。



6 八王子神社

大永6年(1526)頃、安宅氏が洲本城を築城した際に、城郭の鎮守と城下繁栄のために八王子神社を奉祀しました。八王子木戸から少し下山した三熊山の中腹にあります。



7 芝右衛門八兵衛大明神

八王子神社の横にあった祠が老朽化したため、本丸内に建て替えられました。芝居好きだったことから「芝右衛門」と記されたものもありますが、古書には柴の葉を使って化けたことから「柴右衛門」と記されています。



1 西の丸の残念石

西の丸は、石垣の石材を切り出す「石切場」で、西の丸の石垣には大きな石が使用されています。本丸に向かうまでの道に、石垣に使用されなかった「残念石」と呼ばれる石が残っており、切り出す時に掘られた矢穴が確認できます。



2 本丸の模擬天守

昭和4年(1929)、昭和天皇の御大典記念に「城型休憩所」として本丸の天守台に建設されました。現在は天守閣内に入ることはできません。現存する日本最古の模擬天守で、市のランドマークとして親しまれています。



3 東登り石垣

山麓にある下の城から山上にある上の城を一体的に守るため、東と西の2箇所に登り石垣がつけられました。登り石垣がある城は全国的にも数城しかなく、中でも洲本城の登り石垣は、山の斜面が急なため階段状になっています。

～天守はあった？～

洲本城には天守が建っていた証拠は残っていませんが、周辺から当時の瓦が多量に出てくること、洲本城のあった時代背景などから、天守があった可能性が高いと考えられています。

洲本城から出土した瓦



「柴右衛門狸の伝説」

昔むかし、三熊山に柴右衛門という狸がおりました。満月の夜は腹鼓を打ち、闇夜には道に迷った人を助け、人々に愛されていました。芝居好きの柴右衛門は、人間の姿に化け、木の葉を小判に変えて毎日のように大阪の中座(芝居見物)に出かけていました。ところがある日、とうとう犬に姿を見破られてしまい嘔み殺されてしまいました。その後、洲本の人々が柴右衛門を偲んで祠を建ててお祀りしたといわれています。

お社の前には狸の置物がいっぱい!





安宅八家衆の堅城

5 炬口城跡

炬口城跡は、標高約96mの万歳山山頂に位置し、戦国時代の16世紀前半に安宅氏によって築られました。天正9年(1581)に秀吉の淡路攻めで降伏したと伝わります。土塁や堀切など当時の遺構がとてよく残っており、堅堀が連続して連なる畝状堅堀は淡路島では非常にめずらしいものです。白巢城とあわせて兵庫県の史跡に指定されました。



6 猪鼻城跡(千草城)

猪鼻山山頂に築かれた城で、洲本城や炬口城が見えることから、のろしをあげ連絡の拠点として利用されていたと考えられています。



7 由良城跡(由良古城)

安宅氏の本城で、秀吉の淡路攻めにより落城したといわれています。黒田官兵衛が城攻めを行い、安宅氏を斬ったとの伝承が残っています。



8 安乎城跡(城腰城)

炬口城主が、子供に家督を譲り安乎に移り住んだ際に築いたといわれます。当時の遺構は、ほとんど残っていません。



西国將軍池田氏の支城

9 由良城跡(成山城)

姫路城主である池田輝政の三男忠雄によって成ヶ島の成山山頂に築かれた城で、別名「成山城」と呼ばれています。池田氏に代わり淡路国を治めた蜂須賀氏によって、城と町を三熊山山麓に移す引越し(由良引け)が行なわれました。



その後、幕末になると成山城の石垣は成ヶ島南の高崎台場の石垣に転用され、今も台場跡の石垣には成山城を築城した際の刻印が残っています。

秀吉に屈しなかった要害無双の城

4 白巢城跡

白巢城跡は、標高約336mの白巢山山頂に位置し、淡路島にある城の中で最も高いところにあります。戦国時代の16世紀前半に安宅氏によって築られました。城主の安宅冬秀は天正9年(1581)の秀吉の淡路攻めの際に、淡路の国人衆の中で唯一抵抗し攻め滅ぼされたと伝わっています。城は自然の地形を活かした縄張りで、江戸時代の地誌には「要害無双の地なり」と記されています。土塁や堀切が良く残っており、兵庫県の史跡に指定されています。



「安宅八家衆の城」
 永正16年(1519)、淡路守護細川氏が阿波の三好氏に滅ぼされ、守護不在の淡路島は、各地の国人が勢力を拡大する戦国時代へと入ります。その中で最大の勢力を誇ったのが、淡路水軍を率いた安宅氏です。安宅氏は、淡路各地に城を構え、その主な城は「安宅八家衆」の城と称されました。洲本市内には、その内6城が存在し、中でも白巢城跡、炬口城跡は遺構の残りが非常に良好で、兵庫県の史跡に指定されています。



格式高い洲本御殿の迎賓館

10 きんてんかく 金天閣

寛永18年(1641)に藩主の蜂須賀氏が三熊山山麓の洲本城跡(下の城)に建てた洲本御殿の一部です。御殿の大部分は明治維新後に取り壊されましたが、玄関と書院だけが残り、大正時代に現在の洲本八幡神社の境内に移築されています。屋根瓦には蜂須賀氏家紋「卍(左まんじ)」が入っています。書院は上段と下段からなり、上段の間に、黒漆塗り折り上げ格天井に金箔が貼られていることから「金天閣」と呼ばれ、兵庫県の文化財に指定されています。内部を見学するには、事前予約が必要です。



11 たけのくちだいばあと 炬口台場跡

文久3年(1863)に家老の稲田氏によって城下町北側の洲本川河口に築造されました。形は多角形で、南北・東西ともに約40mの大きさだったと考えられています。石垣の一部は、現在でもしっかりと残っています。淡路島の由良や岩屋にある台場は海を守るためにつくられましたが、この台場は洲本城下町を守る目的でつくられました。



12 いつくしまじんじや 厳島神社

城下町繁栄期にはまだこの地にありませんでしたが、現在は「弁天さん」の愛称で島民に親しまれている神社です。明治時代に洲本川河口付近から外堀の埋立工事によってできた現在の地に移転してきました。

毎年11月21~23日に開催される弁天祭は淡路島最大の祭りといわれ、たくさんの露店が並び賑わっています。

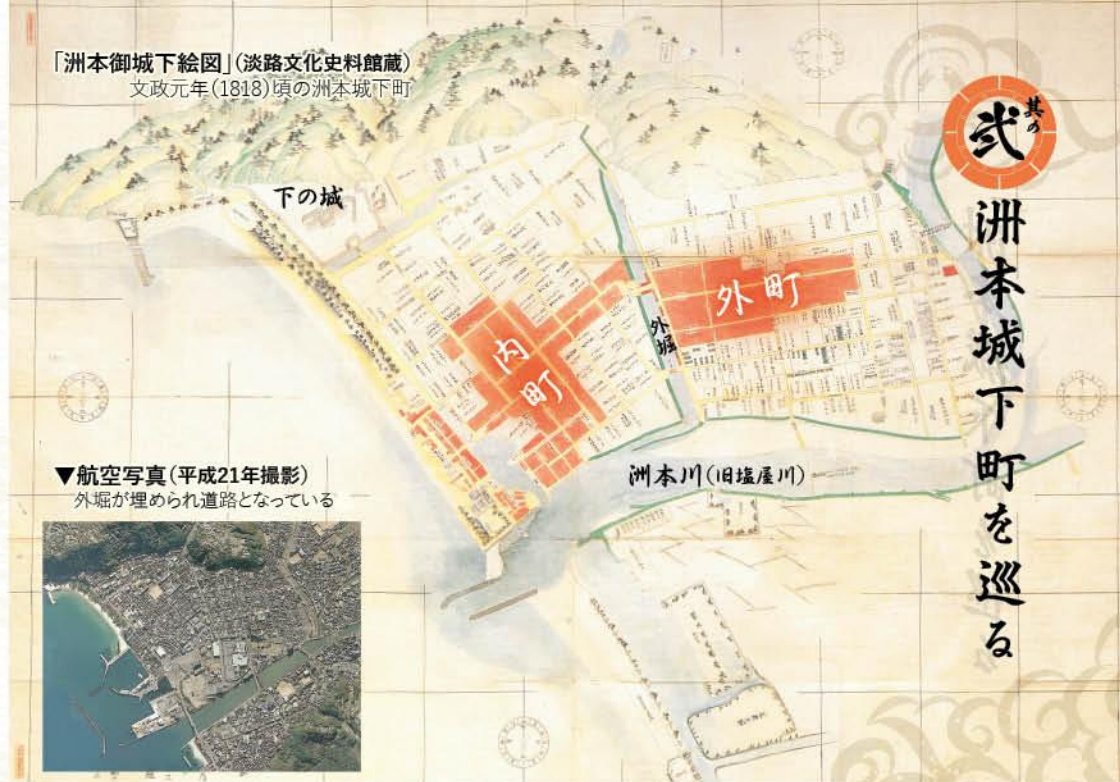
13 すもと 洲本レトロこみち

かつて城下町として栄えた街並みにある南北約350mの小道。2012年に開催したまち歩きイベントをきっかけに、古民家や空き家を利用したお洒落なレストランやカフェ、雑貨店などたくさんのお店が軒を連ねています。

毎月第1日曜日には、旧益習館庭園の西側にある広場で「おもしろい市」を開催しています。



「洲本御城下絵図」(淡路文化史料館蔵)
文政元年(1818)頃の洲本城下町



▼航空写真(平成21年撮影)
外堀が埋められ道路となっている



武 洲本城下町を巡る

「江戸から変わらぬ町割り」

洲本城下町は、戦国時代に安宅氏が洲本城を築いてからその歴史が始まります。その後、脇坂氏の時代に内町部分に城下町が築かれ、淡路国の中心地となりました。

脇坂氏が伊予の大洲へ国替えしたことにより一時的に由良に城下町が移されましたが、江戸時代に入って蜂須賀氏の時代になると、再び洲本に城と町が移され、外町地区が新たに築かれました。今でもその町割りが色濃く残る洲本城下町の誕生です。

内町は、大通りが城に対して縦方向に並ぶ縦町型城下町、外町は大通りが城に対して横方向に並ぶ横町型城下町となっています。この縦町型と横町型が並列しているのが洲本城下町の特徴です。城下町の外周には松が植えられていたことから、「松の内」とも呼ばれています。明治時代に、内町と外町を隔てていた外堀は埋め立てられ、現在は堀端通りとしてその名が残っています。

10 すもとはちまんじんじや 洲本八幡神社

創立は不明ですが、永祚2年(990)に国司の藤原成家によって創建されたと縁起書に記されており、古くから洲本の鎮守として崇敬されてきました。

江戸時代には藩主の蜂須賀氏が寺院奉行を派遣し祭事を行い、春祭には、流鏝馬や競馬などが奉納されたといわれています。





処刑された徳島藩士の慰霊碑。題字は最後の藩主である蜂須賀茂韶が記しました。

15

専称寺の
庚午志士の碑



江国寺は稲田家の菩提寺で稲田家歴代当主の墓があります。

16

江国寺の招魂碑

襲撃された稲田家臣の慰霊碑。



稲基神社の境内にあり、稲基神社の碑には稲田家の矢羽根紋が刻まれています。

12

稲基神社



▲斎藤崎庵筆「稲田氏西荘園」(個人蔵)



◀碑に刻まれた稲田家家紋「矢羽根紋」



国名勝 旧益習館庭園

庚午事変ゆかりの地へ

日本最大級の巨石を用いた豪壮な武家庭園

14 旧益習館庭園



紅葉の時期に実施される秋のライトアップの様子(毎年11月中旬頃に開催)

旧益習館庭園は、徳島藩筆頭家老の稲田氏の別荘「西荘」の庭園として造られました。幕末に、稲田氏は学問所を別荘の地に移し、その後は益習館と呼ばれるようになりました。明治3年(1870)に起きた庚午事変により、益習館は焼失しましたが、庭園だけが当時の面影を残しています。

庭園にある高さ4mを超える自然石の巨石は、庭石としては日本最大級で、臨場感のある武家庭園を感じることができます。平成31年(2019)に淡路島の庭園としては初となる国の名勝に指定されました。

「庚午事変(稲田騒動)」

明治3年(1870)5月13日に洲本城下町で、徳島藩士が稲田家の家臣の屋敷や益習館などを襲撃する事件が起こりました。その年の干支から「庚午事変」と呼ばれています。

徳島藩蜂須賀家の筆頭家老であった稲田氏は、阿波と淡路に大名並みの所領が与えられ、多くの家臣を抱えていました。

幕末の激動期、徳島藩は公武合体派でしたが、稲田氏は尊王派として、明治政府誕生に貢献しました。

明治2年(1869)の禄制改革によって藩主は華族、藩士は士族となりますが、稲田家臣は陪臣(家臣の家臣)のため、士族には入れませんでした。稲田家臣は士族編入と分藩独立を明治政府に願い出しました。しかし、一部の徳島藩士が分藩独立に反発し、稲田氏や稲田家臣の屋敷などを次々に襲撃しました。稲田側は抵抗することなく、死者17名、負傷者20名、益習館を含む多くの建物が焼失しました。

事件を重くみた明治政府は、徳島藩士首謀者10名に切腹や島流しなどの処分をくだし、稲田家臣団には北海道日高国静内(現・新ひだか町)へ移住開拓を命じました。この事件がきっかけとなり、淡路島が兵庫県に編入されたとされています。

写真: 矢羽根紋朱盃(淡路文化史料館蔵)



17 せんざんせんこうじ ぼんしやう 先山千光寺の梵鐘

千光寺境内の鐘楼に吊られている梵鐘は、鎌倉時代後期につくられた淡路島最古の梵鐘で、国の重要文化財に指定されています。

鐘に刻まれた文字には、戦国時代に安宅秀興が戦乱により売り払われていた鐘を買い戻したと記されています。



「狛猪の縁起」

延喜元年(901)、播州の狩人忠太は、山中で猪篠王という大きな猪を射ました。ところが大猪は、矢傷を負ったまま海を渡り、淡路島の山奥に逃げ込みました。忠太が血の跡を追っていくと、たどり着いた先山の杉の洞中に、矢の刺さった千手観音菩薩がありました。驚いた忠太は殺生を深く反省し、頭を剃って仏門に入り、千手観音菩薩を祀る寺を建立し、安置しました。

このことから千光寺の本堂の前には狛犬ではなく、狛猪が置かれています。



参

先山千光寺と
ゆかりの地を巡る

「淡路富士山頂に建つ名刹」

標高約448mある先山は、淡路島のほぼ中央に位置し、別名「淡路富士」と呼ばれています。『先山千光寺縁起』では、国生み神話により淡路島が最初に誕生したとき、最初にできた山が先山だと記されています。山頂には千光寺があり、境内には江戸時代の初めに徳島藩主の蜂須賀氏によって再建された本堂があります。そのほかに高田屋嘉兵衛らの寄付により江戸時代に修復された三重塔や、国重要文化財である梵鐘、国生み神話ゆかりの伊弉諾尊、伊弉冉尊が祀られた二柱御大神祠があります。

また、千光寺の始まりに猪が深くかかわっており、境内では珍しい狛猪が出迎えてくれます。

千光寺は、室町時代の淡路国守護細川氏や、戦国時代に淡路水軍を率いた安宅氏、江戸時代の藩主蜂須賀氏など、歴代の統治者に崇拜されました。



18 ふたついし 二ツ石

中川原地区に二つに割れた大きな石が祀られています。忠太が千光寺の僧となったことを知った妻が、播州から子連れて夫に会いに行きましたが、既に仏門に入っていた忠太は妻子と会おうとしませんでした。妻子は深く悲しみ、子は先山の向かいにあるこの岩の上で父の名を叫び続けたところ岩が割れてしまったという悲しい伝説があり、「二ツ石」の地名の由来にもなっています。



19 いわとしんじや 岩戸神社

山の斜面にある巨石がご神体で、国生み神話で天照大御神が岩戸隠れした場所だといわれています。



▲二柱御大神祠



▲三重塔



▲淡路富士 先山



「淡路水軍の本拠地」

由良は古代より海上交通の要衝として栄えた港町です。古事記には毎日朝夕に淡路島の清水を仁徳天皇に献上するために使われた船のことが記されています。

また、古代には南海道の淡路島の玄関口として「由良駅」が置かれました。中世には、淡路水軍を率いた安宅氏の城が築かれ水軍が入り出す港として栄えました。

幕末には台場が、明治には陸軍要塞が築かれ要衝の地としてあり続けました。

成ヶ島（成山側から高崎を望む）

かつては陸続きだった島

23 成ヶ島

成ヶ島は、由良の町のすぐ目の前にある小島で、北側の成山と南側の高崎を結ぶ約3kmの砂州があることから別名「淡路橋立」と呼ばれています。瀬戸内海国立公園となっているこの島には稀少な動植物が生息しています。かつては北側と南側は陸続きで港口は成ヶ島の中央にありましたが、荒波の際に船の出入りができなかつたことから、江戸時代に北部を掘削し新しい港口「新川口」が完成しました。風が吹くと古い港口「古川口」が砂で埋もれてしまうので、生石と高崎の間に「今川口」を切り開き、現在の姿となりました。

成ヶ島の台場

幕末に、黒船来航によって開国を迫られた江戸幕府は、大阪湾防衛のため台場の築造命令を出し、これを受けた徳島藩は岩屋と由良に台場を築城しました。



24 高崎台場跡

文久元年(1861)に徳島藩によって、成ヶ島の南端に築かれました。由良城の石垣を転用したといわれています。



25 六本松台場跡(オランダ台場)

紀淡海峡を守るために、文久元年(1861)に造られました。元は五角形であったと考えられています。

淡路島随の滝

20 鮎屋の滝

ホタル、秋の紅葉に照らし出される光景は壮観です。

滝から上流へさかのぼると一の瀬のあたりに鮎屋川ダムがあり、二の瀬、三の瀬…と十二の瀬まで続いているといわれています。

昭和27年(1952)頃、滝の畔に温泉施設がありましたが、ダム建設によって源泉が水没したため温泉は閉鎖されましたが、地元住民の手によって復活し、現在は温泉スタンドで温泉を購入することができます。



鮎屋川の上流にある落差14.5mの淡路島最大の滝です。地元の人から「お滝さん」と呼ばれ親しまれています。流水が岩を打つ響きが滝壺にこだまし、春の新緑や夏の

21 鮎屋川ダム

水不足に悩む鮎屋川流域の農業用水確保のため昭和44年(1969)に完成した直線重力式コンクリートダムで、堤高46.2m、堤頂長198.3m、貯水量180万m³です。ダム堤体からは、淡路富士と呼ばれる先山が一望できます。



22 五ノ瀬の祠

淡路守護大名であった細川氏が阿波の三好氏に滅ぼされたとき、幼子の忠若丸が乳母とともに殺されたという伝説があり、鮎屋川上流にある五の瀬のあたりに祀られています。





第一～五砲台とそれを守る堡壘がありました。第一、四、五砲台は、終戦まで存続しました。



第一・二砲台がありましたが大正時代の要塞整理で撤去されました。



高崎台場を改修し造られました。地下に格納された特殊な加農(カノン)砲が設置されていました。



由良地区の堡壘・砲台の中では、爆破の程度が軽く、比較的よく残っています。



由良地区の堡壘・砲台の中で、最も爆破の程度が著しく、徹底的に破壊されています。



交通連絡路など陸軍が整備した道を軍道、煉瓦のアーチ状の橋は軍橋と呼ばれました。



生石山堡壘砲台群
第一砲台跡 砲側庫

京阪神防衛のために築かれた由良要塞

「大日本帝国陸軍の二等要塞」

由良要塞は、東京湾要塞や下関要塞と並ぶ陸軍の二等要塞で、明治22年(1889)に築城が開始されました。大阪湾に敵艦の侵入を許すことは、京阪神の壊滅を意味するため紀淡海峡の防衛は東京湾に次いで重要視されました。

淡路島の由良、和歌山の加太、深山、友ヶ島が由良要塞の範囲に含まれます。鳴門要塞も後に由良要塞に編入されました。

由良地区には、生石山堡壘砲台、成山砲台、高崎砲台、伊張山堡壘、赤松山堡壘が築かれ、要塞司令部が置かれました。海に向けて撃つものを「砲台」、陸に向けて撃つものを「堡壘」と呼びます。各所に設置された堡壘砲台は、単体では十分な威力を発揮できません。それぞれの施設がそれぞれを補い強力な防衛力を有するようになります。要塞と呼ばれる所以です。

堡壘砲台は、戦時中の度重なる要塞整理により、再編成されて廃止されたものもありました。戦後は再び使用しないように米軍の命で爆破されました。

紀淡海峡

紀伊国と淡路国との海峡です。艦船が通過できるのは、淡路島と友ヶ島との間の由良瀬戸と呼ばれる幅4.7kmだけです。ここを通過されると大阪湾の地形上、京阪神の防衛はできないため、必ず紀淡海峡で食い止める必要がありました。



26 生石公園

第一～五砲台跡は生石公園内にあります。生石岬展望台からは成ヶ島や大阪湾、紀淡海峡が一望でき、朝日の名所としても有名です。また園内には、紅梅と白梅が約260本植えられた梅園があり2月中～下旬が見頃です。



▲生石山第四砲台から発見された砲身



▲伊張山堡壘のトンネル



▲加農(カノン)砲の砲座



28 たかたやかへえきうていあと
高田屋嘉兵衛旧邸跡

50歳のときに函館から都志に帰り、故郷のために働きました。文化年間(1806~1816)に改修され、総面積は543坪ありました。現在、邸宅跡には記念碑が建てられています。



29 つしはちまんじんじや
都志八幡神社

古くから船主に崇拜された神社で、境内には船乗りが奉納した石灯籠や、嘉兵衛がロシアに捕らえられた際に、弟たちが嘉兵衛の無事の帰国を祈願し、それが叶ったことから寄進された隨身門が残っています。



北前船に乗って活躍した江戸時代の豪商

高田屋嘉兵衛ゆかりの地を巡る

夕日に染まる都志港湾



▲日露友好の像
ゴローニン(左)と高田屋嘉兵衛(右)

事件は無事解決しました。

「ゴローニン事件」

エトロフ島で日本人がロシア人に襲撃される事件が起こりました。日露関係は緊迫していたことから、文化8年(1811)に江戸幕府が千島列島調査中のロシア船ディアナ号艦長のゴローニンを捕える事件が発生しました。副艦長リコルドは日本と交渉を試みますが失敗したため、ゴローニンの消息を知るためにクナシリ沖を通りかかった嘉兵衛を捕えロシアに連行しました。リコルドと嘉兵衛は同じ部屋で寝起きし、信頼関係を築き、平和的解決に向け話し合いました。嘉兵衛は、襲撃事件はロシア政府の命ではない旨の釈明文を提出するようリコルドに提案し、嘉兵衛が交渉役となつて2年3カ月におよぶゴローニン事件は無事解決しました。

「豪商高田屋嘉兵衛翁」

高田屋嘉兵衛は明和6年(1769)に、五色町都志の港町に生まれました。幼い頃、海面が同じ時刻でも日によって高さが異なることに気づき、潮の満ち引きを調べて大人を驚かせたといわれています。22歳の時に船乗りを志し、兵庫津の堺屋喜兵衛のところで修業を積みました。28歳の時には、15000石積の「辰悦丸」を新造し、船持船頭となりました。嘉兵衛は北海道の天然の良港「箱館」に着目し、現在の函館の基礎を築きました。また、幕府の要請を受けクナシリ島からエトロフ島に至る航路を開拓し、領土開拓に寄与しました。文化9年(1812)、嘉兵衛翁は「ゴローニン事件」に巻き込まれカムチャツカに連行されますが、民間人の立場で日露外交問題を見事解決し帰国しました。帰国後は故郷の都志に戻り、港やため池の整備に私財を投じ、淡路島の発展に尽くしました。文政10年(1827)、59歳でその生涯を終えました。現在も嘉兵衛の偉業は忘れられることなく称え続けられています。



42 たかたやけんしゅうかん な はな
高田屋顕彰館(菜の花ホール)

高田屋嘉兵衛公園(ウエルネスパーク五色)内にあり、嘉兵衛に関する資料や北前船(辰悦丸)の模型などが展示されています。また、司馬遼太郎により嘉兵衛の生涯を描いた「菜の花の沖」の校正入り原稿も展示されており必見です。

- 📍 洲本市五色町都志1087(高田屋嘉兵衛公園内) ☎0799-33-0354
- 👤 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生200円
- 🕒 10時~17時
- 🌳 火曜日(祝日の場合は翌平日)※1月後半と6月に公園の休園日有
- 📍 淡路島中央スマートICから約10km(約18分) 🅇有



詳細はコチラ



◀ 辰悦丸の模型

27 さんせつぱーくごしき むらび おかこうえん
サンセットパーク五色 夕日が丘公園

新五色浜背後の山頂にある公園で、石造りの舟だんじりが設置されている展望広場から瀬戸内海に沈む夕日が一望できます。また「淡路サンセットライン」と呼ばれる淡路西海岸沿いの県道31号線からは水平線に沈む美しい夕日を眺めながらドライブを楽しむことができます。





◀客殿(左)、▲貴賓館(右上)、
寝殿(右中)、門柱(右下)

和と洋の調和が美しい近代和風建築

32 春陽荘 しんようそう

春陽荘は昭和16年(1941)に岩木造船の社長宅兼事務所として建てられた近代和風住宅です。約430坪ある広大な敷地には、客殿、貴賓館、寝殿、常住殿、蔵など8棟の建物があ、家相方位学いわゆる「風水」に基づき、敷地の選定から棟の配置まで建物の役割によって設計がなされています。入口の門柱は由良要塞(陸軍要塞)にあったものが使用されています。

春夏秋冬、四季に映える邸を雅号にちなんで「春陽荘」と名付けました。貴賓館は宿泊施設として、常住殿は甘味処や和装での撮影会、お茶会など、様々な日本文化の継承の場所として活用されています。

後世に継承していく文化財として国の有形文化財に登録されています。



淡路島では数少ない桃山時代の建築

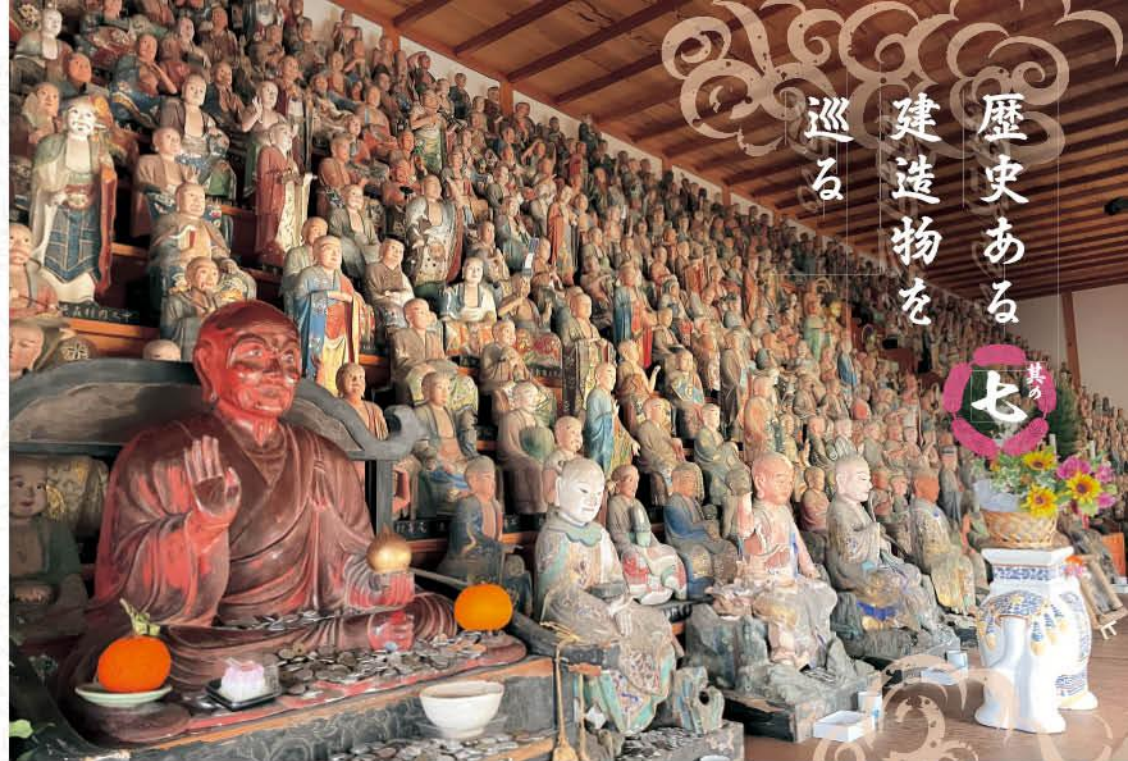
33 鳥飼八幡宮本殿 とりかいはちまんぐうほんでん

平安時代に、京都の石清水八幡宮の「淡州鳥飼別宮」として創建されました。現在は「鳥飼八幡神社」と呼ばれています。本殿は、桃山時代の建物で県の重要文化財に指定されています。

ここには平安時代後期に近衛天皇の母にあたる美福門院が石清水八幡宮に奉納した15基の内の1基の「沃懸地螺鈿金銅装神輿」があり、神輿の上部には鳳凰が乗っています。全国でも同じような神輿は3基しか残されており、国の重要文化財に指定されています。



◀本殿(上)、神輿(左下)、鳳凰(右下)



歴史ある
建造物を
巡る

七 其の

見事な色彩が施された圧巻の羅漢像

30 蓮花寺五百羅漢 れんげじごひゃくらかん

羅漢堂の五百羅漢は、江戸時代後期に蓮花寺を復興した実怨上人が安置した十六羅漢にはじまり、その後66年の歳月を経て淡路島内から奉納されたものです。五百羅漢とは釈迦に仕えた500人の高僧のことで、蓮花寺には釈迦如来像なども入れると531体の羅漢像などがあります。姿勢も座像、立像、たて膝など実に様々なポーズで、個性豊かな表情をしています。五百もの親しみやすい表情の中から、今は亡きご先祖様に似た羅漢さまを見つけてください。



先山を背に建つ江戸時代の二重塔

31 蓮光寺太子堂 れんこうじたいしどう

太子堂は、洲本城下町の洲本八幡神社の神宮寺・龍宝院に建立された塔婆建造物です。龍宝院は明治期の神仏分離で廃寺となり、太子堂も解体されることになりましたが取り壊すのはあまりに惜しいと当時の蓮光寺の住職によって現在の地へ移築されました。お堂の中には、聖徳太子像が祀られています。

市の文化財に指定されています。

八其の

洲本の古墳を巡る

「地域の首長たちが眠る」

古墳時代は3世紀後半から7世紀までの約400年間を指し、前期・中期・後期の3期に大別されます。淡路島では160基を超える古墳が確認されていますが、ほかの地域と比べて非常に少ないのが特徴です。前期古墳に象徴される前方後円墳は発見されておらず、確認されているほとんどが後期の古墳です。

洲本市内からは約40基の古墳が確認されており、安平地区や下加茂地区では、円墳が密集して集まっている群集墳があります。下加茂地区の群集墳には、三角縁神獣鏡が出土したコヤダニ古墳も含まれています。他にも淡路島最大の横穴式石室を持つ曲田山古墳も曲田山南麓にあります。

曲田山古墳石室



アルチザンスクエア (旧汽缶室)

横穴式石室

35 下しもぎ堀つぎの築穴古墳



古墳時代後期につくられた円墳で、洲本市の史跡に指定されています。

36 岡古墳



小型の円墳で、周辺には他にも古墳が数基あったと言われています。

家形石棺



37 岡の谷1号墳(都志本村の石櫃)

淡路島で発見された家形石棺は「石櫃」と呼ばれている岡の谷古墳と淡路市深草の福満寺境内にある石棺蓋の2つです。どちらも同様の型式で、石材は播磨の籠山石が用いられています。



三角縁神獣鏡は全国で500枚以上発見されていますが、そのほとんどが有力豪族の首長の墓から出土しているため、権威の象徴ともいわれています。この鏡は大正時代の末に開墾中に出土しました。同じ鑄型でつくられた鏡が、奈良県黒塚古墳などで出土しており、淡路島からはこの1枚しか見つかっていません。淡路文化史料館で展示されています。

コヤダニ古墳出土
「三角縁神獣鏡」

淡路島の近代化の象徴、赤レンガ建物群

34 鐘淵紡績工場跡

明治33年(1900)に、東京を中心に操業していた鐘淵紡績株式会社が淡路紡績工場を買収し、洲本に進出しました。その後、明治37年(1904)の洲本川の付け替え工事によりできた埋立地に新しい工場を建てるなどして発展していきました。現在は古い工場のレンガ造りの建物が図書館やレストランとして再利用されています。



▲洲本図書館 (旧第二工場)



▲S BRICK (旧原綿倉庫)



▲淡路ごちそう館御食国(旧汽缶室)



ドラゴンクエスト生誕30周年記念碑

「ドラゴンクエスト」シリーズの生みの親である堀井雄二氏は洲本市出身のゲームデザイナーです。平成29年(2017)に「ドラゴンクエスト」生誕30周年を記念して、洲本市民広場に記念碑が建立されました。

剣で悪縁を切り、楯で厄除け、スライムに触れて幸福を招く...という思いが込められています。



「ドラゴンクエスト」生誕30周年記念碑として大人気



十 其の 淡路文化史料館を巡る

淡路文化史料館は、昭和57年(1982)7月に開館しました。昭和49年(1974)に、洲本城跡(下の城)にあったホテルが廃業となり、以前ホテルに売却した土地を買い戻す市民運動が起こり、その影響を受けて、市は堀に面した土地・建物を取得しました。跡地の利用については、市民運動で提唱された資料館や美術館にすることが決定し、旧ホテルを改修して淡路文化史料館が誕生しました。

開館一年目に開催した、淡路の国と蜂須賀氏展の開幕にあわせ、史料館入口に、洲本城跡の碑を建立しました。

館内には淡路島の歴史や民俗、美術など、郷土の特色に満ち溢れた文化資料を数多く展示しています。

淡路文化史料館 誕生秘話



1階
庚午事変に関する資料や淡路島から採取された化石などを展示しています。



2階
淡路焼とよばれる珉平焼などの美術工芸品や島の民俗資料などを展示しています。



3階
淡路島出身の南画の巨匠である直原玉青画伯より寄贈を受けた作品を展示しています。



43 あわじぶんかしりょうかん 淡路文化史料館

📍 洲本市山手1-1-27 ☎ 0799-24-3331
 ¥ 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生150円
 ⌚ 9時～17時(入館は16時30分まで)
 📅 月曜日(祝日の場合は翌平日)、12/28～1/4



詳細はコチラ



39 かわかみじんじや 河上神社のイブキ

県の天然記念物のイブキは高さ16.5m、胸高周3.34m、根廻り3.35mの巨木で、樹齢約500年と推定されています。河上神社には、菅原道真公の伝説が残っており、道真公が植樹した、あるいは道真公が置き忘れた杖が芽をふき成長したなどの伝説が残っています。江戸時代中期に河上神社拝殿改修の際、ご神木のイブキが拝殿に倒れ掛かり「明日切り除かん」と翌朝見に行くと、1mほど立ち直っていたという伝説が残っており、それを物語るように拝殿の方向に傾いています。

40 とりかいはちまんぐろ 鳥飼八幡宮のホルトノキ



ホルトノキは千葉県以西の温暖な地方に植生する常緑高木で、県下では淡路島にのみ自生するといわれています。高さ17.1m、根廻り8m、幹廻り4.1mの巨木で、樹齢は約600年といわれています。

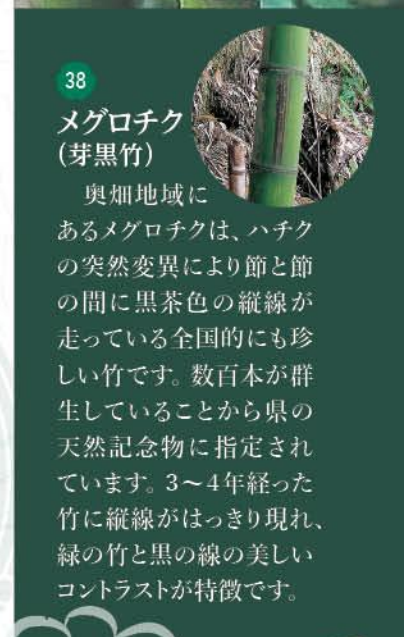
41 しろみのやぶむらさき(しろみのあざむらさき) シロミノヤブムラサキ(白実の藪紫)



三熊山に植生するシロミノヤブムラサキは、秋に紫色の実をつけるシソ科のヤブムラサキの新品種で、白い実がなります。この株以外に白実は報告されていませんでしたが、平成29年(2017)に大阪府豊能町で国内2例目が発見されました。

九 其の

天然記念物を巡る



38 メグロチク (芽黒竹)

奥加地域にあるメグロチクは、ハチクの突然変異により節と節の間に黒茶色の縦線が走っている全国的にも珍しい竹です。数百本が群生していることから県の天然記念物に指定されています。3～4年経った竹に縦線がはっきり現れ、緑の竹と黒の線の美しいコントラストが特徴です。



アンモナイト

「淡路島の化石」

淡路島南部には、和泉層群と呼ばれる白亜紀末期(約7300万年〜6600万年前)に海底で堆積した礫岩や砂岩、泥岩でできた地層が分布し、その地層から、ヤマトサウルス・イザナギイ(恐竜)をはじめ、翼竜や、カニ、エビ、ウニ、アンモナイト、植物などの化石が見つかっています。

珍しい異常巻きアンモナイト「プラビトセラ」や「ディディモセラ」などが見つかっていて、淡路文化史料館に展示されています。

アンモナイトは絶滅しましたが、オウムガイは現在も生息しています。オウムガイの祖先は約5億年前に誕生し、それからほとんど進化していないことから、「生きた化石」と言われています。

パキディスカス



【学名】Pachydiscus awajiensis
【分類】頭足類アンモナイト亜綱
【時代】後期白亜紀(約7,300万年前)
【全長】約22.5cm

渦巻き状に巻いた平べったい円盤状の殻を持つ正常巻きアンモナイトの一種で、淡路島から沢山発見された。

プラビトセラ



【学名】Pravitoceras sigmoidale
【分類】頭足類アンモナイト亜綱
【時代】後期白亜紀(約7,300万年前)
【全長】約29.5cm

S字型の殻を持つ異常巻きアンモナイトの一種で、淡路島周辺と北海道からしか発見されていない珍しい化石。

ディディモセラ



【学名】Didymoceras awajiense
【分類】頭足類アンモナイト亜綱
【時代】後期白亜紀(約7,300万年前)
【全長】約17.2cm

巻貝のような螺旋状の殻を持つ異常巻きアンモナイトの一種で、淡路島周辺と北海道からしか発見されていない珍しい化石。



ヤマトサウルス・イザナギイ

【学名】Yamatosaurus izanagii
【分類】鳥脚類ハドロサウルス科
【時代】白亜紀最末期(約7200万年前)
【全長】7~8m【体重】4~5t

©Masato Hattori

約7200万年前の地層から

洲本市から発見された恐竜化石 「ヤマトサウルス・イザナギイ」

平成16年(2004)の春に洲本市の和泉層群と呼ばれる地層から恐竜の化石が発見されました。17年の時を経て、令和3年(2021)に発見された化石がハドロサウルス科の新属新種のものであることが発表され、「ヤマトサウルス・イザナギイ」と命名されました。

名前の由来は、「淡路島」で発見され、ハドロサウルス科の起源に重要な役割を持っていることから、古代の日本を示す「倭」と、古事記の「国生み神話」に登場する神様「伊弉諾尊」にちなんで名づけられました。

ハドロサウルス科の恐竜は、カモのような平らで長いクチバシが特徴で、何層にも重なった特殊な歯で植物を食べていたとされる恐竜です。研究の結果、下あごの骨や歯の特徴が他のハドロサウルス科の恐竜と異なることや、肩や前肢の進化がハドロサウルス科の起源において重要であることが分かりました。

淡路文化史料館では、発見されたヤマトサウルス・イザナギイの化石レプリカや、復元頭骨、実物大生体復元画などを展示しています。



◀発見された下あごの一部のレプリカ(長さ約50cm、高さ約20cm)



淡路文化史料館
オリジナルキャラクター
ヤマトサウルス・イザナギイの「ナギイ」

体験講座

開催日:土曜日・日曜日(年末年始の休館日を除く)
時間:①10時00分〜 ②14時00分〜
定員:各5名程度(先着順)

※前日までに電話予約が必要
問 淡路文化史料館
☎0799-24-3331

銅鐸・銅鏡鑄造体験

かわいいミニ銅鐸や銅鏡を作ってみよう!
体験料:銅鐸1,200円、銅鏡800円
所要時間:1時間程度
対象:小学生以上

アンモナイトレプリカづくり

カラフルな化石レプリカを作ってみよう!
体験料:1種類300円、2種類500円
(種類はパキディスカスとプラビトセラの2種類)
所要時間:20分程度 対象:どなたでも



▲三熊山競馬場で行われた鐘紡運動会(大正4年) ▲三熊山競馬場跡の碑

みくまやまけいばじょう 三熊山競馬場

淡路島はかつて馬の産地でした。大正元年(1912)に、個人が産馬の改良増殖のため、三熊山の中腹に多額の私財を投じて競馬場を建設し、洲本町(現洲本市)に寄付しました。洲本の商店街からの寄付金もあってレースは充実し、島民の祭典として賑わいました。第二次世界大戦の激化により一時中止となり、終戦後に復活しましたが、昭和35年(1960)に、経済的理由により廃止となりました。

その後、国立公園施設整備事業によって競馬場跡は、三熊いこいヶ丘園地の駐車場となり、昭和52年(1977)に道路沿いに「三熊山競馬場跡」の碑が建立されました。

みくまきうじょう みくまやま 三熊球場(三熊山グラウンド)

現在、淡路文化史料館がある場所には球場がありました。昭和31年(1956)に開催された国体では、高校野球の会場として使用されました。しかし、約5,500坪の敷地は近代的スポーツ施設としてはあまりにも狭かったため、広くて大きい野球場を郊外に建設することが決定し、昭和42年(1967)12月に三熊球場の約2.5倍の面積がある市営野球場(現:市民交流センター野球場)が建設されました。球場跡地は昭和40年(1965)に売却され、昭和43年(1968)7月にはホテルやボウリング場などが建設され、その後、市に買い戻されました。



モノクロ写真で 知る洲本



▲車両先頭の行き先表示板(淡路文化史料館蔵)

昭和40年頃の洲本川鉄橋

「淡路鉄道の歴史」

淡路島には、かつて島民に親しまれた淡路鉄道がありました。

明治44年(1911)に賀集新九郎らが中心となり、淡路島の中心地である洲本から四国への要港がある福良間の鉄道建設に着手し、大正3年(1914)に淡路鉄道株式会社が設立されました。大正11年(1922)11月に蒸気機関車を購入し、洲本口―市村間の運行が開始され、大正14年(1925)に洲本―福良間全線開通が実現しました。その後は、各駅を新設しながら島民の足として活躍しました。

昭和18年(1943)に全淡自動車株式会社と合併し、淡路交通株式会社となりました。昭和23年(1948)に鉄道電化が完成し、以後は淡路島に電車が走り出しました。

しかし、日本の高度経済成長に伴い、道路整備と自家用車の普及が進み、昭和41年(1966)9月30日に島民に惜しまれながら最後の運行を行い、44年間の歴史に幕を閉じました。現在は淡路鉄道の線路跡のほとんどが道路となっています。



▲淡路鉄道路線図



▲昭和41年9月末の最後の運行



▲昭和30年代の洲本駅

イベント案内 すもと歴史さんぽ ～まち歩きはタイムトラベル～

洲本市内の歴史文化遺産をガイド付きで巡るまち歩きを開催しています。順次さんぽコースもご紹介していきます。

問 洲本市教育委員会生涯学習課 ☎0799-22-3321



申込み・詳細はコチラ



35 下坂の築穴古墳 P25
 時代:古墳 種類:史跡 指定:市
 洲本市五色町下坂401 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約9km(約15分)
 P 無

28 高田屋嘉兵衛旧邸跡 P21
 洲本市五色町都志 五色BC付近
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約10km(約18分)
 P 無 ※五色BC駐車場をご利用ください

21 鮎屋川ダム P16
 洲本市鮎屋 一の瀬付近
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約13分)
 P 無

14 旧益智館庭園 P12
 時代:江戸~明治 種類:名勝 指定:国
 洲本市山手三丁目3-8付近
 ☎ 0799-22-3321(洲本市生涯学習課)
 休 月~金(祝日は開園) 10時~16時 ¥ 無料
 洲本ICから約6km(約12分) P 無

7 由良城跡(由良古城) P9
 時代:戦国 種類:史跡
 洲本市由良4丁目16番付近
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約14km(約25分)
 P 無

36 岡古墳 P25
 時代:古墳 種類:史跡
 洲本市安乎町平安浦 付近 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約6km(約10分)
 P 無

29 都志八幡神社 P21
 洲本市都志大宮63
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約10km(約15分)
 P 無

22 五ノ瀬の祠 P16
 洲本市鮎屋 五の瀬付近
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約7km(約15分)
 P 無

15 専称寺 P13
 洲本市本町8-7-31
 ☎ 0799-22-1909
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約5km(約10分) P 有

8 安乎城跡(城腰城) P9
 時代:戦国 種類:史跡
 洲本市安乎町平安浦560付近 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約10分)
 P 無

1 洲本城跡(上の城)・三熊山 P4+5
 時代:戦国~江戸 種類:史跡 指定:国
 洲本市小路谷1272-1
 ☎ 0799-25-5820(洲本観光案内所)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約8km(約16分) P 有

37 岡の谷1号墳(都志本村の石櫃) P25
 時代:古墳 種類:考古資料 指定:市
 洲本市五色町都志1106(高田屋嘉兵衛公園内)
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約12km(約20分)
 P 無

30 蓮花寺五百羅漢 P22
 洲本市安乎町宮野原460
 ☎ 0799-28-0133
 休 ¥ 境内自由
 淡路島中央スマートICから約6km(約10分) P 有

23 成ヶ島 P17
 成ヶ島渡船 ☎ 0799-27-0691
 休 火~木曜、お盆、年末年始 9~17時(12月~3月は16時)
 ¥ 由良支所北棧橋~成ヶ島棧橋 往復大人300円・小人200円
 渡船にて約200m(約2分)
 ※詳細はHPを確認 

16 江国寺 P13
 洲本市栄町3-3-19
 ☎ 0799-24-3355
 休 ¥ 境内自由
 洲本ICから約5km(約10分) P 有

9 由良城跡(成山城) P9
 時代:江戸 種類:史跡
 洲本市由良町由良 成ヶ島成山
 休 ¥ 周辺自由
 成ヶ島棧橋から約1km(徒歩15分)

2 洲本城跡(下の城) P5
 時代:江戸 種類:史跡 指定:市
 洲本市山手1-806-1
 ☎ 0799-25-5820(洲本観光案内所)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約15分) P 無

38 メグロチク P26
 種類:天然記念物 指定:県
 洲本市奥畑144-2付近 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約5km(約10分)
 P 無

31 蓮光寺太子堂 P22
 時代:江戸 種類:建造物 指定:市
 洲本市上内膳1207
 ☎ 0799-22-3926
 休 ¥ 境内自由
 洲本ICから約1km(約3分) P 無

24 たかきだいばあと 高崎台場跡 P17
 時代:江戸 種類:史跡
 洲本市由良町由良 成ヶ島高崎
 ※高崎へは立入り制限があるため生石公園展望台より遠望してください。

17 千光寺の梵鐘(先山千光寺) P15
 時代:鎌倉 種類:工芸品 指定:国
 洲本市上内膳2132 ☎ 0799-22-0281
 休 ¥ 境内自由
 (祝休日午前は参拝を避けることが望ましい)
 淡路島中央スマートICから約5km(約18分) P 有

10 洲本八幡神社・金天閣 P10+11
 時代:江戸 種類:建造物 指定:県
 洲本市山手2-1-10 ※指定は金天閣
 ☎ 0799-22-0549(洲本八幡神社)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約13分) P 有

3 大浜公園 P5
 洲本市海岸通1-871-1
 ☎ 0799-22-3321(洲本市商工観光課)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約15分) P 有

39 河上神社のイブキ P26
 種類:天然記念物 指定:県
 洲本市五色町鮎原南谷562
 休 ¥ 境内自由
 淡路島中央スマートICから約6km(約10分)
 P 無

32 春陽荘 P23
 時代:昭和 種類:建造物 登録:国
 洲本市宇山2-5-4
 ☎ 土日(春陽荘)0799-20-1729
 平日(京都事務局)075-204-8965
 洲本ICから約5km(約10分)
 ※詳細はHPを確認 

25 ろっぽんまつだいばあと 六本松台場跡(オランダ台場) P17
 時代:江戸 種類:史跡
 洲本市由良町由良 成ヶ島
 成ヶ島棧橋から南へ約700m(徒歩10分)

18 ふた いし ニツ石 P15
 洲本市中川原町ニツ石 ニツ石橋約北100m付近
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約2km(約5分)
 P 無

11 炬口台場跡 P11
 時代:江戸 種類:史跡
 洲本市炬口1-2-1
 ☎ 0799-22-3321(洲本市生涯学習課)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約11分) P 無

4 白巣城跡 P8
 時代:戦国 種類:史跡 指定:県
 洲本市五色町鮎原三野畑 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約8km(約18分)
 P 有 ※道中に獣害対策の柵があります。

40 鳥飼八幡宮のホルトノキ P26
 種類:天然記念物 指定:市
 洲本市五色町鳥飼中314
 休 ¥ 境内自由
 洲本ICから約11km(約18分)
 P 無

33 鳥飼八幡宮本殿 P23
 時代:安土桃山 種類:建造物 指定:県
 洲本市五色町鳥飼中314
 休 ¥ 境内自由
 洲本ICから約11km(約18分)
 P 無

26 おいしこうえん 生石公園 P19
 洲本市由良町由良2605-1付近
 ☎ 0799-22-3321(洲本市商工観光課)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約17km(約30分) P 有

19 いわ と じんじや 岩戸神社 P15
 洲本市上内膳 先山東茶屋南「十六丁」付近
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約5km(約18分)
 P 無

12 いづしまじんじや いなもとじんじや 厳島神社・稲基神社 P11+13
 洲本市本町4-1-27
 ☎ 0799-22-0049
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km(約12分) P 有


5 炬口城跡 P9
 時代:戦国 種類:史跡 指定:県
 洲本市炬口 万歳山山頂 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約6km先の炬口漁港より徒歩約1km(約25分) P 無

41 シロミノヤブムラサキ P26
 種類:天然記念物 指定:市
 洲本市小路谷 洲本城跡南の丸北西付近
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約8km(約16分)
 P 無

34 鐘淵紡績工場跡 P24
 時代:明治~大正 種類:建造物
 洲本市塩屋1丁目 洲本市民広場付近
 休 ¥ 周辺自由
 ※営業は各施設によって異なる
 洲本ICから約6km(約12分) P 無

27 サンセットパーク五色 夕日が丘公園 P20
 洲本市五色町鳥飼浦2786
 ☎ 0799-33-0160(洲本市地域生活課)
 休 ¥ 周辺自由
 淡路島中央スマートICから約13km(約20分) P 有

20 鮎屋の滝 P16
 洲本市鮎屋334-2
 ☎ 0799-22-3321(洲本市商工観光課)
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約7km(約15分) P 有

13 洲本レトロこみち P11
 洲本市本町5~6丁目、栄町2丁目
 洲本ICから約5km(約12分)
 休 ¥ 各店舗により異なる
 ※詳細はHPを確認 

6 猪鼻城跡(千草城) P9
 時代:戦国 種類:史跡
 洲本市千草内 猪鼻山山頂 ※私有地
 休 ¥ 周辺自由
 洲本ICから約7km先猪鼻谷フォレストパーク付近より徒歩約1時間(登山道なし) P 無

※私有地を散策する場合は、所有者、近隣住民の迷惑とならないようご注意ください。

淡路島洲本の歴史巡りMAP

冊子を手にも、歴史文化遺産を
巡ってみよう！

QRコードをスキャン
すると詳しい場所が
分かるよ！！



ACCESS

- 【大阪方面】**
- 海老江JCT 約60分(約86km) → 洲本IC
 - 阪急梅田 約120分 → 洲本BC
- 【神戸方面】**
- 垂水JCT 約30分(約43km) → 洲本IC
 - 三ノ宮 約90分 → 洲本BC
 - 約80分 → 五色BC
 - 高速舞子 約60分 → 洲本BC
 - 約50分 → 五色BC
- 【徳島方面】**
- 鳴門IC 約30分(約33km) → 洲本IC
 - 徳島駅 約80分 → 洲本BC
- 【洲本市内】**
- 洲本IC 約5分(約4km) → 淡路島中央スマートIC

市街地 街歩きモデルコース

- スタート /
- 9:00 洲本バスセンター
↓ 徒歩約10分
 - 9:10 淡路文化史料館 P27
洲本城跡(下の城) P5
↓ 徒歩約20分
 - 10:30 洲本城跡(上の城) P4
↓ 徒歩約20分
 - 12:00 洲本レトロこみち P11
↓ 徒歩すぐ
オムライスやバスナ、ハンバーガー、
ラーメン、カレー...どこまで食べようか
迷っちゃうわね！
 - 13:00 旧益智館庭園 P12
↓ 徒歩約3分
 - 13:30 巖島神社 P11
↓ 徒歩約5分
 - 14:00 金天閣 P11
↓ 徒歩約10分
歩き疲れたら足湯でリフレッシュ
 - 14:30 鐘淵紡績工場跡 P24
↓ 徒歩約5分
信濃屋やS BRICKで土産を
買って帰ろう♪
 - 16:00 洲本バスセンター
/お帰れ囉！

市街詳細図





発行 洲本市教育委員会生涯学習課 ☎0799-22-3321
兵庫県洲本市本町三丁目4番10号

※本冊子に掲載している情報は2022年10月13日時点での有効な情報です。
情報は変更となる場合がございますので最新の情報や詳細をご確認ください。